

田尻英敏君（11組）との思い出

福澤源一郎（11組）

今年1月24日、奥さんから訃報をもらったが電話に出られず、長野市在住の同級生清水公男君（11組）経由で田尻英敏君が亡くなったことを知り茫然自失となった。

昨年7月に体調を崩し療養に入ることを田尻君本人から連絡をもらい、その後10月頃までは連絡を取り合っていたが、11月に状態が悪くなり集中治療室に入ったことを奥さんから知らされていたので、ある程度覚悟していた。

彼は政府系銀行に就職し最初の赴任地が長野であったため、以前よりも交流が盛んになり、登山、スキーなど一緒によく出かけた。彼は行動派で全て段取りしてくれた。40代中頃、彼が新潟の支店長として赴任中に私も新潟に単身赴任中だったので、新潟市で食事をご馳走してもらった。社宅のマンションの立派さにさすが銀行の支店長はすごいと驚いた。その時、趣味で彼が油絵を描くことを知った。1畳もある様な大きなキャンバスに新雪の浅間山の絵を制作中であった。その才能を羨ましく思ったことを今思い出す。

定年後は実家をリフォームし、月に数回は帰省するようになり、必ず顔を出してくれた。私の作った果物をお土産に渡したものだ。次の来る時に趣味で作ったジャムや燻製などのお土産をもらった。5月の連休と盆休みにはゴルフをセットしてくれ、上田近郊で毎年楽しんだ。昨年5月に彼と彼の娘婿としたのが最後のゴルフとなってしまった。

昨年、自分で毎年味噌を作っているからと言って持って来てくれた。来年は俺にも作り方を教えてくれと約束し、3月には一緒に作ることになっていたが、既に叶うことなくなってしまう残念でならない。

高校時代、太郎山に登ったり菅平にキャンプに行ったりして、自然相手によく遊んだのも懐かしい。清水君と田尻君と三人でよく遊んだが、ここでは割愛させていただく。

明るく朗らかで、才能にあふれ、自然を愛した田尻君のご冥福を祈ります。

（2024年2月12日記）

《次ページに、写真2葉》



20代前半、穂高岳にて、左が田尻君、右が筆者



田尻君が所属していた日本山林美術協会の展覧会に出品作品

『白樺林』、同協会HPより

以上